

<ホームページ公開用>

平成25年度 第3回児童福祉専門分科会 議事要旨

日 時	平成26年2月21日（金） 16:00～17:15
場 所	総合庁舎7階 会議室
出席者	<p>(委 員)中川千恵美、岡修一郎、奥山知也、小野剛、勝山真介、 辻本謙嗣、藤並マサ子、井上寿美</p> <hr/> <p>(事務局)子どもすこやか部 田村 子ども家庭室 奥野 子ども家庭課 川西、高木 子育て支援課 栗橋 子ども見守り課 西島 保育室 寺岡 保育課 関谷</p>
議 題	<p>1. 子ども・子育て会議の進捗状況について</p> <p>2. その他</p>
議事内容	<p>(開会)</p> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子ども・子育て会議の進捗状況」</li> <li>ニーズ量の算出、集計方法、アンケート結果による教育・保育提供区域の設定について説明</li> </ul> <p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・保育提供区域の地域ごとのニーズ量を算出しないといけないのでは。</li> </ul> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回示しているのは全体の数値。提供区域別の数値は現在算出中。</li> </ul> <p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リージョンごとの設定であれば、リージョンの中でも地域差があるので、中学校区ごとの設定が重要。</li> </ul> <p>○会長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域利用についてはどうなるのか。</li> </ul> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他市については府が取りまとめを行う。東大阪は中部ブロック圏域であり、近隣の市町村と広域調整していくことになる。</li> </ul>

○委員

・対象となる方自身の中学校区やリージョン内でしか利用できないのか。住んでいる地域と離れて就労されている場合、家と保育所の往復だけでなく通勤の関係があるので、配慮するよう検討がしているのでは。

○事務局

・自宅の近くで預けたい方や通勤途上の便利なところで預けたい方がいる。検討していきたい。

○事務局

・「子ども・子育て会議の進捗状況」

認定基準案についての説明

○委員

・小規模保育について、国の財源措置は明確になっているのか。

○事務局

・待機児童加速化プランのなかで先行して国が決めている。市の負担部分もあり、まず基準を決定し6月の定例会で条例案をあげると同時に、運営・整備するための予算を補正予算としてあげる予定。

○委員

・（小規模保育の保育従事者について）安全上のことを考えると保育士という専門職以外の方が増えていくということを含め、小規模保育については、危惧している部分がある。

○委員

・待機児童が多いなか、既存の施設の設備について何とか利用できないものか考えている。

○委員

・国の方針そのものが定まっているのか疑問に思うところがあるので、安易にその方針に乗るべきでないように思う。

○会長

・平成27年度スタートに向けて、需要量と供給量を整備し、それに見合うサービスを再編していくことが求められている。

○委員

- ・小規模保育はしないといけないのか。
- 事務局
  - ・市として整備していかないといけないと考えている。
- 委員
  - ・食事に関して、アレルギーへの対応が重要。また、食育をすることによる子どもたちの成長というのが保育の一環としてある。そのため、幼保連携型認定こども園では保育所並みの食に対する一定の基準を設けた方がいい。
- 委員
  - ・公立幼稚園の空き教室を0、1、2歳に当てながら受け入れを増やすという計画なのか、もしそうだとしたら、どの程度までニーズに応じていける定員の増を見込んでいるのか。
- 事務局
  - ・待機児童を考えていくうえで、施設整備について幼保連携型認定こども園のかたちで公立幼稚園も受け皿のひとつとして利用できないのかという思いがある。
- 委員
  - ・大きな施設をつくらなくても保育士の数が増えればやっていけると思う。しかし現実を考え、どの程度までできて、どこからが無理なのかを考えていく議論を行いたいと思う。
- 委員
  - ・一番問題になっているのは、保育士が集まらないということなのか。
- 委員
  - ・保育士は不足している状況。保育士が保育以外の掃除、片付けなどを行っている保育所において、保育以外の部分を保育従事者の方に担っていただければ、もう少し少ない保育士の数で対応できると思う。ただ小規模保育の場合、保育士と保育従事者で子どもを受けるといったようなシステムでは必要な保育を維持するという意味で危険性は増す。
- 事務局

- |  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「子ども・子育て会議の進捗状況」<br/>保育の必要性の認定について説明</li></ul> <p>○ 会長</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ あるべきすがたである理想と実際の現状をどのように埋めていくのか、待機児童についてどこまでニーズ量として把握し、公立幼稚園の整備に関してどこまで担うのか、一定の見通しを提示したうえで今後のあり方、基準について考えていきたい。</li></ul> <p>(閉会)</p> |
|--|--|